初めてのiPadOS, iOSアップグレード

iPadOS 15とiOS 15のアップデートに必要な準備

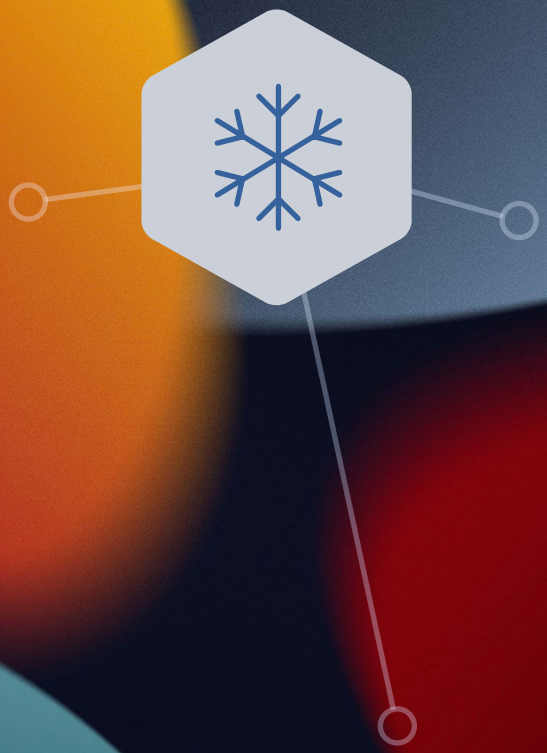


iPadOSとiOSの アップグレードの 準備はお済みですか?

iPadOSとiOSの新バージョンが登場し、あなたのデバイスで利用できる日が近づいています。IT担当者は、ワークフローを乱すことなく、また生産性を低下させることなく、これらの新機能や新システムをユーザの手元に届けることが仕事になります。

本書では、適切にOSのアップグレードを進めるためにIT担当者が準備しておくべきことをご紹介します。

Appleのアップグレードが他のエコシステムと異なる理由



他のエコシステムとは異なり、Appleは、OS(macOS、iPadOS、iOS、tvOS、watchOS) のメジャーバージョンを毎年リリースしています。デバイスが古いソフトウェアを実行している場合、一貫性、セキュリティ、およびユーザエクスペリエンスが損なわれる可能性があります。そういった事態は、組織が単一の管理ソリューションでさまざまなデバイスやOSプラットフォームをサポートしようとする場合に特に当てはまります。

シンプルなアップグレード手順、そしてOSのアップグレード費用が無料であることも相まって、業界トップレベルのコンシューマーへの導入率を実現しています。エンドユーザは、新しい機能にアクセスできることを楽しみにしていますが、一方で、セキュリティコントロールと正確なシステムインベントリを常に維持する責任があります。

多くのIT企業が知っているように、これは「言うは易し、行うは難し」であり、特にAppleユーザが期待するペースでアップグレードを行うとなるとなおさらです。

Jamfでは、18年以上にわたってApple社のアップグレードに携わってきた経験から、Apple社のアップグレードを成功させるためのステップバイステップのガイダンスを提供します。

企業がアップグレードを受け入れ、新しいOSがリリースされた日にエンドユーザがデバイスをアップデートできるようにすべき理由は、次の4つです。

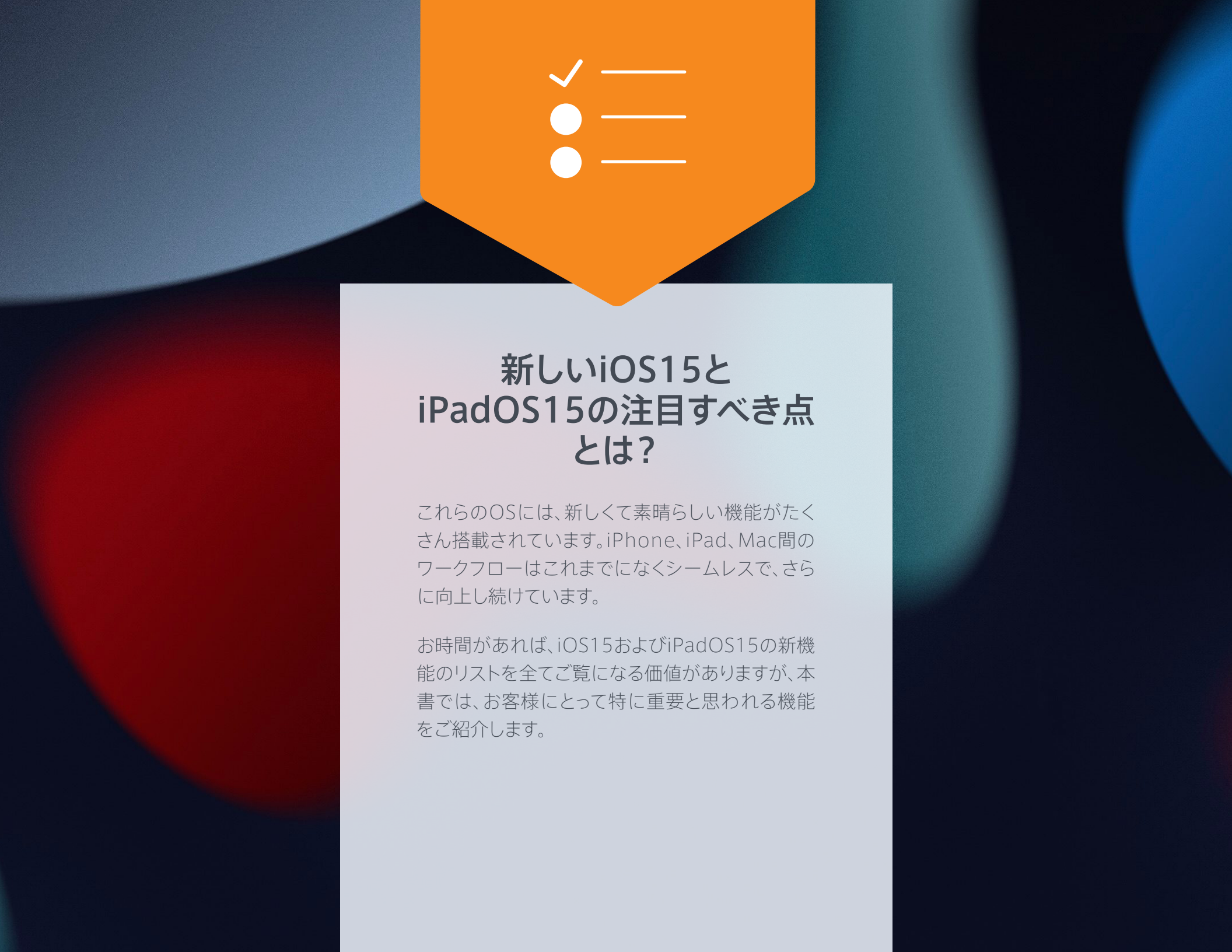
1. セキュリティの脆弱性を減らす

2. エンドユーザの満足度を高める

3. ユーザの生産性向上

4. 新しいIT管理機能にアクセスする

本書では、新しいiPadとiPhoneのオペレーティングシステムを徹底的に理解し、アップグレードの準備と実施を慎重に行う方法を紹介しています。障害を最小限に抑え、予定外のダウンタイムをなくす方法を学ぶとともに、組織に価値を提供するための知識を身につけ、iPadOS 15およびiOS 15へのアップグレードをユーザに説明することができます。

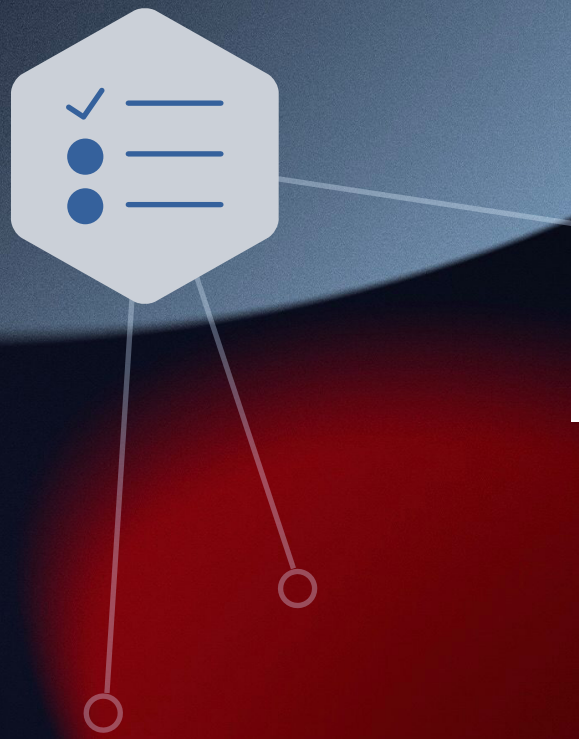


新しいiOS15とiPadOS15の注目すべき点とは？

これらのOSには、新しくて素晴らしい機能がたくさん搭載されています。iPhone、iPad、Mac間のワークフローはこれまでになくシームレスで、さらに向上し続けています。

お時間があれば、iOS15およびiPadOS15の新機能のリストを全てご覧になる価値がありますが、本書では、お客様にとって特に重要と思われる機能をご紹介します。

新しい iOS 15と iPadOS 15 の注目点



iOSの制限について

新しい貼付制限では、エンドユーザが機密情報などの特定のアイテムを、管理されていない場所やアプリケーションにコピー＆ペーストできないようになっています。
これにより、企業はデータを管理されたアプリケーションのセキュリティの範囲内に収めることができます。また、Siriの制限では、デバイスがSiriサーバに連絡して翻訳作業を行うのではなく、デバイス上で翻訳作業を行うことで、翻訳にさらなるセキュリティを付加することができます。

プライベートリレー

プライベートリレーは、iCloud+のサブスクリプションの一部として提供される新しいインターネットプライバシーサービスです。
ユーザのIPアドレスと位置情報を隠すことで、よりプライベートで安全にWebサイトに接続して閲覧することができ、Appleを含む誰もがネットワークの観点から個人とアクセスしているサービスを関連付けることができなくなります。

iOSのApple Configurator

iOS上でデバイスの登録が簡単にできるようになります。以前は、Apple Configuratorを使うためには、Macデバイスとケーブルを持って歩き回らなければなりませんでしたが、今は違います。

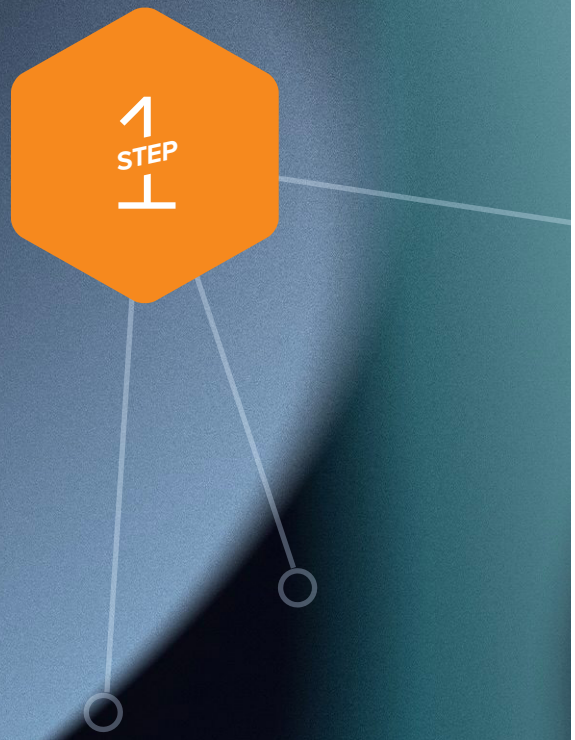
たったこれだけです
1. 管理しているApple IDでログインする
2. カメラを使う
3. ポップアップした画像を「セットアップアシスタント」に登録する

セットアップアシスタント

これらの機能は、管理者に新しいワークフローオプション、登録機能、および監視されていないデバイスにサービスを提供する機能を提供します。

上記のような機能をユーザにタイムリーに提供するための最良の方法と手順を以下のページでご紹介します。

βプログラムへの参加



Appleのベータソフトウェアプログラムに参加すれば、新しいOSのバージョンや機能が組織に与える影響をいち早く知ることができます。

AppleはOSを定期的にアップデートしているので、ベータプログラムに参加すれば、OSのリリースに先立って数か月間のテストを行うことができます。Appleは、macOS、iPadOS、iOS、tvOS、watchOS向けに、有料のデベロッパベータプログラムと無料のパブリックベータプログラムを提供しています。

ベータプログラムに参加する理由は？

1 OSのベータサイクルは、通常、複数のフェーズで行われます。早期に参加してAppleにフィードバックを提出することで、お客様に最も影響を与える機能や問題が解決される可能性が高まります。

また、お客様が最初にバグレポートをAppleに提出した場合、重複したバグレポートが閉じられる前に、チケットの状況を確認することができます。

2　ベータ版に参加すると、新機能や互換性をいち早く試すことができるだけでなく、エンドユーザの体験にどのような影響があるのかをより深く理解することができます。新たに追加された設定、移設された機能、ラベルの変更などを知ることで、トレーニング教材やオンボーディングキットなどの更新に必要な情報を得ることができます。

このようにして、エンドユーザ·エクスペリエンスの変化に備えることで、よりユーザを中心としたサポートモデルやコミュニケーションプランを実行することができます。

3　最後に、お客様の環境で現在提供されているソフトウェアを継続して使用するためには、新しいOSの設定や機能に加えて、アプリケーション、インフラ、管理の互換性テストが重要になります。

Appleのベータプログラムで、導入済みのアプリケーションに問題がないかをテストすることをお勧めします。問題を発見した場合は、関連するベンダーに報告することで、Appleの公式リリース時にアプリケーションが確実に動作するようになります。

技術スタック全体のテスト

アップグレードによって、最良の結果を得るために、また、アップグレードがエンドユーザのワークフローに予期せぬ影響を与えないようにするために、以下のような技術スタック全体をテストすることをお勧めします。

1 インフラストラクチャ

VPNやプリンタ・ドライバのテストなど、アプリケーション・スタック以外のものを含む全てを新しいOSでは必ずテストする必要があります。

2 アプリケーション

ウェブベースと非ウェブベースの両方のアプリケーションを含みます。すべてのアプリケーションをテストする時間がない場合は、アプリケーションベンダーの互換性に関するステートメントに基づいて優先順位を決めます。但し、Webサイトやドキュメント、あるいは直接のコミュニケーションにおいて、互換性を積極的にアピールしていないベンダーについては、自分でアプリケーションを検証するのが最善です。

3 管理

デバイスの導入および管理ソリューション（MDM、EMM、UEMなど）を含みます。デバイス管理ソリューションが、新しい制限、管理機能、および機能をテストする機能を提供しているかどうかを確認してください。

テストの前の優先順位付

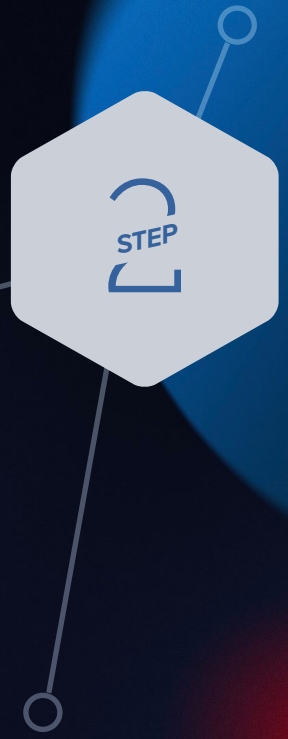
あなたの組織では、多くのチームが、さまざまなアプリを使用して、多種多様な方法でデバイスを使用しているかもしれません。

そういった環境でも、アプリのテストを成功させるためには、優先順位をつけることが重要です。

アプリを重要度の高いもの、低いもの、中程度のものにランク付けする方法もあれば、それぞれのアプリの使用状況を見て、それに応じて優先順位を決める方法もあります。

また、各アプリの使用状況を把握し、優先順位をつける方法もあります。例えば、各部門（財務、マーケティング、営業など）から代表者を募り、テストを行うことで、日々の使用状況を把握し、できるだけスムーズに進めることができます。

iPadOS、iOS、tvOSのアプリはアーキテクチャが異なるため、これらのプラットフォームでは軽度なテストが適しているかもしれません。Sellenium、TestPlant、Sikuliなど、ポイント・アンド・クリックでタスクを実行してテストを自動化する自動テストツールの活用を検討してください。



iPadOS 15 と iOS 15へのアップグレード



いよいよ、iPad、iPhoneのアップグレードを実施するにあたっては、2つの選択肢があります。

アップグレードの担当者をユーザにするか、IT部門にするかです。

以降のページで、それぞれについて説明していきますが、その前に大事な点を一つお伝えしておきます。もし、まだテスト中である、あるいは、アップグレードの準備ができていないという場合には、Jamfのような管理ソリューションを使用していれば、アップデートを最大90日間延期することができます。延期した場合、ユーザ自身の判断でのアップグレードはできなくなりますので、しっかりと準備した上で安心してアップグレードを実行できます。

iPadOS 15とiOS 15へのアップグレード



アップグレードの準備が出来たら

準備を完了し、アップグレードを進めることを決めたら、ユーザとITのどちらがアップグレードを担当するのかを決める必要があります。

ユーザによるアップグレード

ユーザがアップグレードを行う場合、ユーザは自分のデバイスの「設定」にアクセスしてインストールを開始します。

IT部門によるアップグレード

デバイスがApple Business ManagerまたはApple School Managerで管理されている場合、IT部門はMDMコマンドを送信して、iPadOS 15またはiOS 15をダウンロードしてインストールすることができます。ユーザの操作は不要です。

このコマンドは、個々のデバイスまたはグループに送信することができ、カスタマイズされたアップグレードプランに合わせてコントロールすることができます。

注：パスコードがない場合は、自動的にインストールを行うことができます。パスコードがある場合は、Jamf ProまたはJamf Schoolがアップデートを待ち受け、ユーザはインストールを開始するためにパスコードの入力を求められます。

アップデートの選択肢が増えました



OSアップグレードをセキュリティアップデートのタイミングに合わせることができます

Appleは、構成プロファイルに新しいRecommendation Cadenceキーを導入することで、IT管理者がアップデートを検討する際の選択肢を増やしました。

iOS 15やiPadOS 15がリリースされたらすぐにデバイスをアップデートすることで、ユーザは最新の機能やセキュリティ設定を利用できるようになります。

これは素晴らしいことですが、もし本番環境で展開する準備ができておらず、もう少し時間が必要な場合はどうしたら良いでしょうか？また、フルアップデートを行う前に、セキュリティアップデートを適用する必要がある場合はどうでしょうか？

そのような場合に、IT管理者は、iOS 14、またはiPadOS 14の使用を継続しながら、必要なセキュリティ設定のアップデートを行うことを選択できるようになります。

これにより、セキュリティアップデートを見逃す心配をすることなく、準備が整った段階で移行するために必要な時間を確保することができます。

エンドユーザとのコミュニケーション

最後に、このプロセスを通して意識すべきことは、エンドユーザに、彼らのデバイスに何が起こるのか、彼らの役割は何なのかを、率直に、透明性を持って、頻繁に伝えることです。

いつアップグレードできるのか、そのプロセスはどうなるのか、一定期間アップグレードできない理由は何かなど、エンドユーザとの双方向のコミュニケーションをとることで、よりスムーズなプロセスが実現します。

コミュニケーションをとることで、ヘルプデスクのチケットや電話の数を減らすことができます。

さらに、上述のようなリクエストや課題をあらかじめ解決することで、エンドユーザに満足してもらい、いつかサポートが必要になったときには、プロセスに参加してもらうことができます。

エンドユーザへの準備のステップ

1. すべてのエンドユーザが、アップグレードにかかる時間を知っているわけではありません。平均的なアップグレード時間を知らせ、アップグレードに最適な時間帯のヒントを提供しましょう。

2. エンドユーザがアップデートを行う前に、デバイスのバックアップを取ることを推奨しましょう。これは、ローカライズされたバックアップとiCloudのバックアップに適用されます。

3. エンドユーザに対して、決定した日から30日以内にアップデートすることを義務付けるポリシーを導入するか、エンドユーザにアップデートすることを知らせましょう。PCIDSSコンプライアンスでは30日が必要です。

電子メール、会社のイントラネット、またはJamfを使用している場合はJamf　SelfServiceアプリカタログを使用して、OSのアップグレードの前にユーザに十分な警告と推奨事項を伝えてください。





アップグレードにより、デバイスを強化、そして快適に

iPadOS15とiOS15は、あなたのデバイスを、あなたのニーズに答え、あなたがAppleに期待する、柔軟でカスタマイズされたマシンにするための改良とワークフローの強化を実現します

シームレスなアップグレードプロセスを提供することは、セキュリティ対策、正確なシステムインベントリの維持、ダウンタイムの排除を確実にするだけでなく、IT部門をヒーローのように見せることができます。Appleのために構築されたApple Enterprise Managementソリューションであるjamfは2012年から、Apple　OSバージョンアップに即日対応してきた実績があり、最新のAppleOSを活用するために必要な機能を備えています。

エンドユーザに悪影響を与えることなく、またIT部門がデバイスに触れることなく、デバイスの導入、管理、セキュリティ、アップグレードなど、企業におけるAppleのライフサイクル全体を自動化する唯一のApple Enterprise Managementソリューションです。

トライアルに申し込む

トライアルにお申し込みいただくか、リセラーにお問い合わせいただき、最高のAppleEnterprise管理をご体験ください